

●コープ手作り餃子重大中毒事故に関する日本生協連の受け止め

日本生協連は、事故を防ぐことが出来なかったことについて、責任を重く受止めています。第三者検証委員会における事故の検証と評価をうけて、以下の点が不十分であり反省すべきことと考えています。

1.事前に苦情情報を得ていながら、原因の追究が十分に行われなかった

千葉県での事故の前に、宮城県で同じ商品に関する異臭情報が寄せられていたにもかかわらず、日本生協連は物流事故として処理し、汚染の原因について十分な調査を行わなかった。

2.事態への認識が弱く危機対応が不十分であった

重大な事故が起きているという認識にいたるまでに時間がかかり、回収の決定・告知に時間を要してしまった。緊急時の対応マニュアルを用意していたが、健康に重大な影響を与えうる危機を想定した訓練が十分でなく、現場での混乱を招き組合員・会員生協に多大な迷惑をかけた。

3.高濃度の農薬が少数の商品に混入するといった事態を想定した、管理体制を取ってこなかった

これまで、残留農薬検査、産地・工場点検、開発時の立会い点検等を実施してきたが、これらの管理方法では、CO・OP手作り餃子事故のような、高濃度の農薬混入といった、特異な危険性のある商品を発見することができなかった。

4.従来の品質管理体制では、原料偽装の商品を見抜けなかった

07年から08年にかけて、CO・OP牛肉コロケ牛ひき肉原料偽装、CO・OP鳴門産わかめ産地偽装が引き続き起きた。これらの事件の検証から、従来の品質管理体制は、原料偽装や産地偽装をふせぐためには十分ではないことが判明した。

偽装事故と重大な中毒事故を起こしたことで、これまで組合員と生協の協同で築きあげてきたコープ商品、そして生協そのものへの信頼が著しく損なわれました。日本生協連は、生協のおかれている厳しい状況を踏まえて、また第三者検証委員会の専門的な指摘と提言を受けとめ、生協への信頼を再形成するための取り組み進めてまいります。この取り組みの柱として、コープ商品の品質保証体系の見直しと改善を継続的に行っていきます。
